

2020年度事業計画書（案）

I. 全体的な取り組み

1. はじめに

新型コロナウイルスの余波が心配される中2020年度が始まりました。2019年度末から続くこの感染症の対応には、当連盟でも看過できない事態として取り組んできました。地震・津波・台風・豪雨・災害規模の猛暑等々、様々なリスクを想定した保育現場での対応策に今年度は取り組みます。近年は地震などの“自然災害”の他、環境汚染に起因した災害やこのたびの感染症などの“人為災害”も規模が甚大になっている印象があります。子どもの安全・安心を迫及する「リスク管理」研修に、特に力を入れていきます。

保育士のイメージアップは、行政もテレビCMに取り上げるなどの取り組みをしていますが、保育実施責任者である市町村との連携で、各地域・園長会独自の保育士イメージアップ事業を展開していきます。また、進路を決定する時期の中高校生に向けての「保育の魅力」発信事業を中学校、高等学校、更には養成校も巻き込んで行い、保育士（園）の社会認知度の向上を図ります。

各保育現場には、保育に関する専門知識や技術が豊富に蓄積されています。それらの専門知識や技術を地域社会に還元する活動を、県社協の「サンクス運動」の一環として、社会的地位の向上を図る目的で推進します。

日本一合計特殊出生率の高い本県ですが、本県にも人口減少の波は押し寄せています。全私保でも取り組み始めた「人口減少地域の問題」を、本県の実情に即して適宜取り組みます。

沖縄でも近年増える傾向にある、子どもの貧困問題・児童虐待問題を、専門家の意見を取り入れながら対応策策定にあたり、本県のすべての子どもたちの人権が尊重され、受けられる利益を最大限に享受できるよう取り組みます。

75年前、戦争で愛する肉親を失いながらもたくましく明るく生き延びたウチナーのオーバーたち。そのアイデンティティーを受け継ぎ明るくたくましく子育てをする“沖縄の母親”に焦点を当て、沖縄の母親たちから、子育ての要諦を学び、当連盟の事業に活かす取り組みを模索します。

2. 活動項目

(1) 対国活動の推進

(2) 対県、対市町村活動の推進

- イ. 沖縄県子ども生活福祉部子育て支援課と連携した「予算説明会」等の開催。その他児童虐待・子どもの貧困問題、保育士確保・離職防止対策問題、保育現場で混乱が生じる恐れのある給食費実費徴収問題等の意見交換会等の開催。
- ロ. 市町村園長会活動の支援（園長会のない町村への情報提供、支援）

(3) 研修活動の充実、強化

- イ. 専門家招聘による研修の実施（キャリアアップ研修会含む）
- ロ. 当連盟主催保育研究大会の開催
- ハ. 県保協主催保育研究大会への参加派遣
- ニ. 九州、全国の保育研究大会への参加派遣
- ホ. リスク管理研修会の企画開催
- ヘ. 沖縄の母親を招聘、講演会の開催

(4) 組織活動の強化

- イ. 各部、各ブロック活動の強化
- ロ. 各市町村と市町村園長会等との連携による求人合同説明会及び保育士人材発掘事業（仮）、保育の魅力発信事業（仮）等の合同開催
- ハ. 人口減少社会の調査研究

(5) 関係団体との連携

- イ. 九州保育三団体、全国関係団体との連携
- ロ. 県内保育関係団体、養成校との連携

(6) 園長会、理事会の開催

- イ. 総会、臨時園長会の開催
- ロ. 定例理事会、臨時理事会の開催

(7) 事務局の強化

- イ. 事務員（フルタイム）二名、パート一名体制の構築
- ロ. ホームページ更新等、事務局業務の強化

(8) 顧問活動

- イ. 理事会への招聘、講話会の適宜開催